海外留学帰国報告書

留学先大学名	**ブレーメン経済工科大学**
留学期間	**2023 年　4月　～　2023年　9 月**
出発時の学年・組・番号	**3年**
所属コース	**グローバルビジネス**
本報告書の提出日	**2023 年　9 月**

１．出発前の準備

留学の目的と学習計画

語学力及び異文化コミュニケーション力の習得と、視野の拡大、および自立心の向上。ウクライナ情勢や移民などのヨーロッパの社会情勢の把握。

入学許可申請

書類提出と面接によって学内選考が行われます。面接は英語、ドイツ語、日本語によって行われました。学内選考後は、留学先に書類の提出をし、入学許可がおりました。

外国語能力

大学の第 2 言語でフランス語を履修していたこともあり、ドイツ語の勉強はあまり出来ていませんでした。基礎から学び始め、留学前に独検４級を取得しました。英語に関しては、１年生の秋学期頃からオンライン英会話を続けていたこともあり、日常会話レベルは話せていたと思います。

留学費用

自分の貯金と奨学金で賄いました。インフレもあり家賃は高めで 460€、保険は月に 100€程でした。閉鎖講座を作り、留学前に約 80 万円振り込む必要がありました。基本的に家賃と保険はいただいていた奨学金で賄い、食費や旅費などは閉鎖講座から使っていました。

奨学金

JASSO 海外留学支援奨学金から月に 8 万円、明治大学学生外国留学奨学金から 10 万円(帰国後に一括)いただきました。これらは給付型でしたので返金の必要はありませんでした。

健康保険・旅行保険

明治大学から指定された保険会社と、ドイツの TK という保険に入っていました。

ビザ

入国して2か月目くらいでビザを取得しに行きました。ウクライナからの移民の影響でブレーメン州ではビザを取得するまでにかなり待つ必要があったようですが、私は隣の州のWGに住んでいたため、待つことなくスムーズに取得することができました。ビザに必要な書類のうち日本で用意できるものは、日本ですべて印刷し準備しておくと良いと思います。また、証明写真についてもビザ申請以外に何度か必要になる場面があったため、多めに持っていくと安心です。

２．協定校での諸手続き

大学のオリエンテーションの際に日本人留学生担当の大学職員の方がすべて英語で説明してくださいます。また、日本語の授業を担当している日本人の先生が様子を見に来てくださったので、何か困ることがあればいつでも相談することができるという環境でした。

３．宿舎と日常生活

ＷＧ(Wohngemeinschaft)という、シェアハウスのようなものに住んでいました。Into roomsというHSBからおすすめされたサイトで探しました。家主さんからの返信が遅く、最初に返信がきたＷＧに出国の一か月前ほどに決めました。(出国の一週間前ほどに決まったという方もいました)私のＷＧはStuhlという大学から40分ほどの場所にあり、遠かったですが自然がたくさんあり、隣の家に馬がいるなど非日常を味わうことができました。ルームメイトは私を含めて４人で、大家さんは隣の建物に住んでいたため、入居時と退居時以外はほぼ会う機会がありませんでした。平日には毎日授業があり週５で学校に通っていました。放課後は現地の学生とtandemをしたり、ライスコーナーという日本語を勉強している学生が集まる食堂の一角で話したりしていました。週末は友達とドイツ国内での小旅行やドイツ周辺の国への旅行をしたり、Bürger parkや川辺でピクニックをしたりしていました。

旅行に行く際にはESNカードを作ることをお勧めします。Flix BusやRyan Airなどで10%割引が適用されます。また、ドイツ国内ではDeutschland ticketで学生は月額16.6€で交通機関が使い放題でした。(semester ticketでHamburgやhannoverまでは無料で行くことができます)

４．協定校のカリキュラム・履修した授業

商学系の授業を２つ、異文化理解の授業を２つ、ドイツ語の授業を１つ履修しました。計24単位分とかなり多くの授業を取得したため少し忙しかったです。すべて英語で行われる授業です。ドイツでの授業は１授業３時間に及び、チュートリアルを含めるとかなり長かったです。中には、週に２日行われる授業もありました。英語で授業を受けることが初めてで、留学初期には３時間集中して英語を聞き続けることに苦労しました。

課外活動

HSBにはクラブ活動のようなものがなかったため、Universität Bremenのバレーボールのクラブに参加しました。いろいろな大学から集まってきていて、メンバーも毎回変わるようでしたので入りやすい環境でした。

留学の成果

語学力の向上については実感しています。ですがそれ以上に、単なる語学力ではなく、総合的なコミュニケーション力が身についたと感じます。私が考える総合的なコミュニケーション能力とは、自分から話しかける行動力や相手に興味を持ち相手の考え方を文化やコンテクストに応じて理解する力、時には共感する力、そして自分の意見をしっかり持って伝える力などを総合した会話力のことです。ヨーロッパの情勢についても、ウクライナからの避難者の仮設住宅を目の当たりにしたり、移民に対するデモを見かけたりと様々なことを考えさせられました。

総合的なコミュニケーション能力に関しては、留学の中での一つ一つの経験において少しずつ自分の理想像に近づけているように感じました。まず留学の応募に当たって、ネット上での情報しかなかったことから、自ら渡辺先生にアポを取り相談にのっていただき、ドイツ語の勉強についてアドバイスをいただきました。選考後には語学力に自信がなかったため日本に留学していたブレーメンの学生を紹介してもらい週に一度 tandem をしてもらうなど渡航前から自ら行動できる力は身に付き始めたと思います。留学先では、話しかけられるのを待つのではなく、とりあえず話しかけてみようと決めました。オリエンテーションウィークでは同じ班になった子や近くにいる子など、とにかく色々な人と話しました。これがきっかけでキャンパスが違うのに週末に頻繁に会ったり、海外旅行に 3 回も一緒に行ったりするほど仲良くなった友達もできました。時にはアジア人差別なのか、すれ違った 3 人組に煙草の煙を顔に吹きかけられたこともありました。しかし、この経験をただのネガティブなことだと捉えて話しかけることにトラウマになってしまうのではなく、思いもよらない出来事にどう対処し捉えていくべきなのかなどと視野を広げることができました。

このような経験を経て、留学の後半には自分の会話力に自信がつき、更に様々な国の人と関わることを目的に、一人旅にも挑戦しました。一人旅先で友達ができて一緒に観光するといった経験をすることもでき、更に新しい人との出会いのすばらしさを実感しました。留学前の私は、母語の日本語でさえも人に話しかけて会話を続けるといったことに壁を感じてしまっていましたが、言語の壁を越えて様々な人と関わることができ、彼らからたくさんのことを学ぶことができました。

帰国準備と帰国後の手続き

住民登録の解除、閉鎖講座の解除、保険の契約解除を行います。

ブレーメン州に住民登録をしている学生は学校から送られてくる書類を書いて提出するだけですが、私の場合は学校に一度問い合わせる必要がありました。しかし、手順はほぼブレーメン州と同じで書類提出だけでした。

5．商学部学生へのメッセージ

語学の勉強だけであれば、日本でもオンラインでもどこでも行うことができます。しかし、留学することによって得られる成果はとてもたくさんあります。また短期留学と比べてみると、長期留学は保険の手続き、ビザの申請、住居の手配、携帯の SIM カードの契約などすべて自分で行う必要があります。このような一見面倒に感じてしまうことにおいても一つ一つの新しい経験の積み重ねで大きく成長できますし、自分でやり切ったという達成感をより感じることもできると思います。最初は一人で飛行機に乗ってドイツに行くといったことでさえもドキドキの連続でしたが、今では新しいことに物怖じせずチャレン

ジできるようになりました。私のようにドイツ語の語学力がほぼ無くても、チャレンジしようという意思とやる気があれば留学を実現することも可能です。このような充実したプログラムを利用できるチャンスがあるのならば、まず応募してチャレンジしてみることをお勧めします。